１．履修学年，科目名，単位数，使用教科書，副教材等

履修学年	3学年	科目名	世界史Ｂ	単位数	5単位
履修コース	特進Ｓ・Ｚ文系	選択区分	選択	予定時数	175時間
教科書	特進Ｓ－『詳説世界史』 特進Ｚ－『新世界史B』	副教材	グローバルワイド最新世界史図表（第一学習社）		
その他					

２．学習到達目標

世界の歴史の大きな枠組みと展開を諸資料に基づき地理的条件や日本の歴史と関連付けながら理解させ，文化の多様性・複合性と現代世界の特質を広い視野から考察させることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３．学習方法

・授業で学習する様々な史的事実を，歴史の流れに結びつけて理解する。
・ノートは，板書をそのまま写すのではなく，説明された内容や気の付いたことを記入するなど，工夫して作る。
・授業等で疑問に思ったことや理解が難しいところは，早めに質問等をして解決する。
・予習と復習を怠らず，問題集等で演習を行うことで理解を深め，知識を身につける。
・幅広い読書，ＴＶの歴史番組，史的テーマの映画鑑賞など意欲的に知識を吸収すること。

４．学習プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	定期考査
1学期	第7章　アジア諸地域の繁栄	モンゴル世界帝国の崩壊後，アジアでは新勢力による帝国が出現し最盛期をを迎える。明清帝国，オスマン帝国，ムガル帝国などの歴史を学び，現在の地域国家との関係を学ぶ。	第1回考査
	第8章　近世ヨーロッパ世界の形成	大航海時代・ルネサンス・宗教改革の近代化の三大運動を学び，それらがヨーロッパ世界を変え，現代世界の礎をなしていることを学ぶ。こうした出来事を背景にヨーロッパに出現した主権国家が17世紀という危機の時代を迎え変貌していく過程を学ぶ。	
	第9章　近世ヨーロッパ世界の展開	17世紀半ばから18世紀後半に至る時期のヨーロッパを学ぶ。啓蒙専制主義（絶対主義）体制とはどういう特質を持っているか，国際関係はどのように展開していったかを詳細に学ぶ。	
	第10章　近代ヨーロッパ・アメリカ世界の成立	18世紀後半に起こった「二重革命」すなわち産業革命と，アメリカ独立革命・フランス大革命を学ぶ。これらの出来事は生活様式から近代民主主義の原則である人権思想を確立し旧制度の廃棄と政治発言力を有産市民層にもたらした。近代市民社会とは何かをこうした歴史から学ぶ。絶頂期を迎えたヨーロッパ文化についても学ぶ。	第2回考査
	第11章　欧米における近代国民国家の発展	ナポレオンの没落後の19世紀の欧米諸国の歴史を学ぶ。前半はウィーン体制とその破綻，後半は1848年革命とその波及を学び，19世紀ナショナリズムの本質を学ぶ。同時に市民社会の成熟とともに発展した19世紀ヨーロッパ文化についても深く学ぶ。	
	第12章　アジア諸地域の動揺	清朝，オスマン帝国，ムガル帝国の衰退期を扱う。ヨーロッパ諸国の進出への各国の対応の特徴を理解しつつ，芽生えるナショナリズムの運動にも留意して学習する。	
2学期	第13章　帝国主義とアジアの民族運動	19世紀後半から第一次大戦までの世界の動向を扱う。第2次産業革命と帝国主義の成立の関連を学び，労働問題の発生と移民の発生，社会主義運動などの諸問題を扱う。	第3回考査
	第14章　二つの世界大戦	戦間期を中心に学習し，世界恐慌を折り返しに変貌する国際社会を深く学ぶ。	
	第15章　冷戦と第三世界の独立	冷戦の開始から末期までを扱う。	第4回考査
	第16章　現在の世界	冷戦の終結と現代世界の諸問題を扱う。	
	入試問題演習	大学入試の良問を精選し，解法のテクニックを学ぶ。	
3学期		個別指導を実施	

５．評価の観点

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	世界の事象に関心や探求心をもち，意欲的にそれらの理解や探求に取り組むとともに，学ぶ姿勢を身につけている。
思考・判断	歴史事象を論理的に考えたり，史料に基づき複眼的に判断することができる。
資料活用の技能・表現	歴史的な事象を探求する方法を身につけ，過程や結果を的確に表現できる。
知識・理解	歴史事象についての知識を身に付け，自ら進んで発展学習をしている。

６．評価方法

（１）授業態度｛質問に対する発表，課題発表｝　（２）課題提出状況　（３）確認テスト　（４）定期考査結果

１．履修学年，科目名，単位数，使用教科書，副教材等

履修学年	3学年	科目名	日本史Ｂ	単位数	5単位
履修コース	特進Ｓ・Ｚ文系	選択区分	選択	予定時数	175時間
教科書	詳説日本史Ｂ	副教材	新詳日本史（浜島書店）		
その他					

２．学習到達目標

我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ，我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって，歴史的思考力を培い，国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

３．学習方法

・授業で学習する様々な史的事実を，歴史の流れに結びつけて理解する。
・ノートは，板書をそのまま写すのではなく，説明された内容や気の付いたことを記入するなど，工夫して作る。
・授業等で疑問に思ったことや理解が難しいところは，早めに質問等をして解決する。
・予習と復習を怠らず，問題集等で演習を行うことで理解を深め，知識を身につける。
・幅広い読書，ＴＶの歴史番組，史的テーマの映画鑑賞など意欲的に知識を吸収すること。

４．学習プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	定期考査
1学期	第6章　幕藩体制の確立 第7章　幕藩体制の展開	全国統一・幕府開設・元和偃武に至るまでの徳川家康の周到させ，新体制を維持するための諸政策の緻密さを確認し，江戸時代の基本政策を把握する。 戦争のない平和な時代が続くなか，武断政治から文治政治にどのように転換したかを確認し，江戸時代の経済・社会・文化がどのように発展していったのかを理解する。	第1回考査
	第8章　幕藩体制の動揺 第9章　近代国家の成立	幕府に生じてきた矛盾・不都合に対し，三大改革でどのように修正し，建て直しを試みたかを確認し，そのようななかで地方・庶民の力が勢いを増し，幕府の統制が機能しなくなっていく様子を理解する。 明治維新の前提として，ペリー来航から幕末の動乱の流れを学ぶ。明治前半の近代国家の形成期，後半の諸制度の整備や対外政策を学び，近代国家日本の発展を理解する。	第2回考査
2学期	第10章　二つの世界大戦とアジア 第11章　占領下の日本	帝国主義列強の一員として国際政局に登場する日本について学び，それに伴う政策の変化を読み解く。また，日本の軍国主義化の流れと第二次世界大戦に至る国際情勢を多角的視点から学ぶ。 占領期の民主化政策と1950年代初めの独立回復の動きを学ぶ。	第3回考査
	第12章　高度成長の時代 第13章　激動する世界と日本 入試問題演習 総復習	経済・文化国家としての日本と1960年代の高度経済成長について学ぶ 1970～1980年代の経済大国日本と1990年代の現代，冷戦終結という新しい情勢下で流動する内外情勢を分析する。 大学入試の問題を精選し，解法のテクニックを学ぶ。共通テスト形式の問題をくり返し解き，問題に慣れるとともに実力をつける。 社会史・文化史・経済史・女性史などの様々な視点から日本史を見つめ直す。	第4回考査
3学期		個別指導を実施	

５．評価の観点

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	歴史事象に関心や探求心をもち，意欲的にそれらの理解や探求に取り組むとともに，学ぶ姿勢を身につけている。
思考・判断	歴史事象を論理的に考えたり，史料に基づき複眼的に判断することができる。
資料活用の技能・表現	歴史的な事象を探求する方法を身につけ，過程や結果を的確に表現できる。
知識・理解	知識・理解 歴史事象についての知識を身に付け，自ら進んで発展学習をしている。

６．評価方法

（１）授業態度｛質問に対する発表，課題発表｝　（２）課題提出状況　（３）確認テスト　（４）定期考査結果

１．履修学年，科目名，単位数，使用教科書，副教材等

履修学年	3学年	科目名	政治・経済	単位数	3単位※
履修コース	総合進学，特進Ｓ・Ｚ文系，特進選抜文系	選択区分	必修	予定時数	105時間※
教科書	政治経済（東京書籍）※※	副教材			
その他	※特進選抜は2単位（70時間）※※総進は「高等学校　新政治・経済」（第一）				

２．学習到達目標

広い視野に立って，民主主義の本質に関する理解を深めさせ，現代における政治，経済，国際関係などについて理解するとともに，それらに関する諸課題について主体的に考察し，公正な判断力を持つ，良識ある公民としての態度と資質を涵養する。

３．学習方法

・教科書を中心に，新聞・書籍も参考に基本事項の知識の定着をはかる。
・スクラップノートを全員が作成し，時事問と関連する事項を学ぶ。学習ノートは，板書を中心に作成していくが，内容に関連する新聞記事などは，スクラップノートに貼り付けるなど工夫する。
・進路決定に役立てるような内容を授業に組み入れ，センター試験・入試に備える。

４．学習プログラム

学期	学習内容	学習のねらい	定期考査
1学期	第1編　現代の政治 第１章　民主政治の基本原理と日本国憲法 第２章　現代の国際政治と日本	・民主主義思想の誕生と，いかに発展していったかを歴史的観点もふまえ理解する。 ・日本国憲法の成立過程を学習し，三大原理を理解する。 ・第二次世界大戦の歴史を通じ，平和について考える。 ・日本の安全保障と自衛隊について考える。 ・基本的人権の考え方を理解する。 ・国会の組織と機能について理解する。 ・内閣の機構と機能について理解する。 ・裁判所の機能と人権保障について理解する。 ・第二次世界大戦後の国際社会の特質を理解する。 ・国際連合の組織と役割を理解する。 ・安全保障と日本の防衛について考える。 ・冷戦終結後の国際紛争について理解する。 ・国際平和と日本の役割について考える。	第1回考査 第2回考査
2学期	第２編　現代の経済 第１章　経済社会の変容と経済のしくみ 第２章　国民経済と国際経済 第３編　現代社会の諸課題 第１章　現代日本の政治や経済の諸課題 第２章　国際社会の政治や経済の諸課題	・資本主義経済のしくみを理解する。 ・社会主義経済のしくみと変容を理解する。 ・財政のしくみとはたらきを考える。 ・租税と国債のしくみを理解する。 ・日本銀行と金融政策について考える。 ・インフレーションとデフレーションのしくみを理解する。 ・国民のくらしを通じ消費者問題を考える。 ・社会保障制度と労働問題について考える。 ・国際経済のしくみと現状を理解する。 ・為替相場のしくみを理解する。 ・国際協調と国際経済機関の役割を考える。 ・国際経済の諸問題と日本の役割を考える。 ・少子高齢社会と社会保障について考える。 ・情報化の進展と市民生活について考える。 ・農業と食料問題について考える。 ・地球環境問題について考える。 ・資源・エネルギー問題について考える。 ・核兵器の廃絶と軍縮について考える。 ・人種・民族問題について考える。 ・国際社会における日本の役割について考える。	第3回考査 第4回考査
3学期		個別指導を実施	

５．評価の観点

評価の観点	評価規準
関心・意欲・態度	社会生活の様々な事柄に関心や探求心をもち，意欲的にそれらの理解や探求に取り組むとともに，学ぶ姿勢 を身につけているか。
思考・判断	社会の成り立ち，しくみなどを論理的に考えることができているか。
資料活用の技能・表現	資料を適切に理解・活用し，調べたことを自分の言葉で発表できているか。
知識・理解	基本的知識を理解し身に付けられたか。自ら進んで発展的学習をしているか。

６．評価方法

・授業態度【質問に対する発表，課題発表など】　・課題提出状況　・定期考査結果